

「仕事」と「私事」はお互い補完しあうもの

The Professional and the Personal – How They Complement Each Other

内海房子 Fusako UTSUMI

私は、NECグループに所属するサラリーウーマンです。1971年にNECに入社してから39年が経とうとしています。この40年近くを振り返ってみますと、仕事、私事ともにいろいろな出来事がありました。私は、入社後すぐに結婚し、翌年には長女が生まれたので、私の20代は仕事と家事育児に忙殺された時期と言えるでしょう。まさに会社と家を往復するだけの毎日でした。そんな生活を不満に思っていたわけではないのですが、多少モヤモヤしていたのかも知れません。娘が小学校に入学したのを機にテニスを始めることにしました。まだ小学校が土曜日半ドンの時代でしたので、ぽっかり私の時間ができたのです。

私は、土曜日の午前中を利用してテニススクールに入りました。テニスは初心者でしたので、ラケットの持ち方から教わりました。スクールメイトもできてテニスの時間はもちろん、それ以外でもお茶を飲んだりおしゃべりをしたりと、それまでには経験できなかった楽しい時間をもつことができたのです。仕事と家事育児だけではどうしても心のどこかに満たされない部分が残ってしまうのですね。それを埋めるために、何とか時間を作って自分の楽しみをもつことが必要だと思います。

今回のテーマである「仕事と私事」ですが、私は、この二つのことは相反することではなく、お互い補完しあうものだと思います。もちろん、公私混同してはいけないこともたくさんありますし、ON OFFをきちんと切り分けられる人が仕事のできる人と言われていることも事実です。しかし、長年会社勤めをしていると、仕事をするリズムやマインドコントロールに私事の部分が大きく影響するのです。つまり、私事がうまくいってなければ仕事もうまく運びませんし、逆に仕事が順調でなければ私事を楽しむ気分にもなりません。仕事が私事を助け、私事が仕事にも役立つの

です。このように仕事と私事がバランスよくかみ合っ初めて両者がうまくいくのではないかと思っています。

私の若いころは、社員に子供がいるということなど会社には何の関係もない、会社では子供の話などしない方がよいとさえ思っていました。しかし、職場の人たちと親しくなるにつれ、子供のことや趣味の話、家庭のことなどを話すようになり、仕事が休みのときには職場の人たちと子供連れで出かけることもよくありました。お弁当を持って大勢でテニスに出かけたことなどは本当に楽しい思い出の一つです。これは、仕事と私事の中間ぐらいのことかも知れませんが、自分の家庭のことについて職場の人たちに理解してもらおうということでは、仕事を続けていく上で大変有益ではなかったかと思います。

40才を迎えるころ、私は自分の会社以外の人たちとお付き合いをする機会に恵まれました。いわゆる異業種の交流会ですが、とくに女性同士の集まりに多く参加しました。「中央官庁と民間企業の女性管理職の会」や「各界で活躍する女性リーダーの集まり」などです。女性管理職がまだ少ない時代でしたので、それぞれの会社にはまだポツリポツリとしかいない女性管理職が方々から集まって来ました。私は、そこでこれまでに味わったことのない不思議な居心地のよさを感じました。昔の同級生にでも会ったときのような、この懐かしい雰囲気は何だろう。そうだ、私が求めていたのは、この空気、この居心地のよさだったのだと気がつきました。きっと同じ年代、同じ価値観をもつ女性との交わりを求めていたのではないかと思います。彼女たちとの付き合いは20年経った今も続いています。旅行に行ったり、ゴルフや観劇を楽しんだりしています。これも「仕事」をし続けてきたからこそ得られた私の大事な「私事」です。



内海房子 Fusako UTSUMI

NECラーニング(株)
代表取締役執行役員社長
津田塾大学学芸学部数学科卒業
E-mail: f-utsumi@tg.jp.nec.com